

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【木崎小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 自分が何を学んだか理解し、学びを積み重ね自己調整していくことに課題がある。 基本的な知識・技能の定着に個人差がある。 <指導上の課題> 児童が自らの学びを振り返る時間が十分でない。 個に応じた指導を充実させていく必要がある。	⇒ 意識的に振り返りをする時間を確保し、その振り返りから次の学びの課題を設定させるように指導していく【毎時間】 朝に行っている「学びの時間」を活用し、一人ひとりの課題にあった学習を進めていけるようにする。【週1回程度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 課題に対して友だちと助け合ったり、伝え合ったりしながら学んでいくことへの意欲に課題がある。 <指導上の課題> 単元の中で協働的に学ぶ時間を設ける。 協働的に学ぶ必要感をもてるような授業づくり	⇒ 研究の視点の中に「協働的に学ぶよさを感じ、自分たちで考え導ける子ども」を位置づけ毎単元意識して授業を行う。【毎単元】 魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもてるような教材の工夫なども行う。【毎単元】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語・算数・理科のどの教科においても埼玉県・全国の平均正答率を上回っている結果から、概ね理解できているといえる。R7年度さいたま市学習状況調査「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」における肯定的な回答の割合が90%であった。学習で身に付けた知識や技能を次の学習や日々の実生活に生かしていることが、確実な知識・技能の習得に繋がったと考えられる。今後も、身に付けた知識・技能を次の学びへと生かしていけるよう指導を継続していく。	
思考・判断・表現	国語・算数・理科のどの教科においても埼玉県・全国の平均正答率を上回っている結果から、概ね理解できているといえる。一方で、国語・算数・理科すべての教科で出題されている記述式の問題に対して、無回答率が高い。選択式で答えが決まっている問いに対しては自信をもって解答できるが、自分の考えを整理しながらまとめることに対しては苦手意識をもっている児童が多いように感じる。今後も、授業の中で、学習で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、課題に対して自分たちで考えを導けるように指導を継続していく。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	自己の振り返りができる時間を設定し、「何を学んだのか」、「どのように学んだのか」を振り返ることによって自己の課題の把握や自己に適した学び方を捉える姿が見られた。振り返りで出た課題を授業内のみで行うのではなく、朝の時間や自主学習などの時間も活用しながら解決し、確実な知識・技能の定着を目指す。	変更なし
思考・判断・表現	A	デジタル学習基盤を活用することで、他者参照により友だちの考えを共有したり、課題解決をするために共同編集したりして協働的な学びをすることができた。今後は、各学年がどのように実践しているのか共有し、学校全体で取り組んでいくことを目指す。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【木崎小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。今後も、問題解決型の授業を充実させ、より一層の定着ができるようにする。また、今年度の成果として挙げられる「振り返りをする時間の確保」については、来年度以降も継続して行い、分かったことや分からなかったことを振り返りながら学びを積み重ね、確実な知識・技能の習得を目指すようにする。
思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を活用できるような授業づくりを行っていく。そのためにも、今年度の成果である「協働的に学ぶ時間の確保」を来年度も継続して行っていく。また、教科や単元で途切れるのではなく、教科横断的であったり、単元の系統性も意識したりしながら授業づくり、実践、振り返りを行い、子ども達が協働的に学ぶよさを実感できるようにする。そのような経験を積み重ね、主体的に学び、新たな自分の考えを生み出し、それを他者へと表現する力を身に付けることを目指すようにする。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 自分が何を学んだか理解し、学びを積み重ね自己調整していくことに課題がある。 【指導上の課題】 児童が自らの学びを振り返る時間が十分でない。	⇒ 自らの学びをメタ認知できるように、学びを振り返る時間を確保する。その振り返りから次の学びの課題を設定させるようにする。【毎時間設定】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 課題に対して友だちと助け合ったり、伝え合ったりしながら学んでいくことへの意欲に課題がある。 【指導上の課題】 意図的に協働的に学ぶ時間を設ける。協働的に学ぶよさを教師が価値付ける。	⇒ 学校課題研修の中で学習の流れに協働的な学びを位置付け、どの教科でも実施できるようにする。【毎時間設定】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	R6年度さいたま市学習状況調査の質問項目「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の回答では、5・6年生ともに肯定的な回答率が90%を超えた。経年比較したときにも昨年度より数値が上昇したことから、ただ、振り返りを書くだけでなく、次の学びにつなげるように意識できたことが結果につながったと考えられる。
思考・判断・表現	A	どの教科でも単元を通して、協働的な学びを取り組む時間を設けることができた。R6年度さいたま市学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の回答では、5・6年生ともに肯定的な回答が90%を超えた。ただ、話し合いの時間を設定するのではなく、児童が協働的に学ぶ必要感をもてるような課題の設定をともに行い、児童が主体的に学んだことが成果につながったと考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語は、全ての問題で埼玉県・全国の平均正答率を上回り、算数は1問埼玉県・全国の平均正答率を下回った。以上の結果から概ね理解できているといえる。R6年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」における肯定的な回答の割合は87.8%であり、継続的な指導が結果に結び付いたと考える。今後も何を理解して、何が理解できなかったのかを振り返る時間を確保しながら、次の学びへとつなげる授業を続けていく。
思考・判断・表現	算数は、全ての問題で埼玉県・全国の平均正答率を上回り、国語は1問埼玉県・全国の平均正答率を下回った。以上の結果から概ね身に付いているといえる。国語の物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書くことにおいては課題がみられた。読んで感じたことや考えたことを記述することに課題がみられたため、今後は、「読むこと」の学習と読書活動の関連を意識して指導し、「読むこと」の資質・能力を高めつつ、日常的に読書に親しむことができる児童の育成を目指す。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	比較的どの学年も、教科を問わず市の平均を上回っている。特に3年生算数「数と計算」、5年生国語「言葉の特徴や使い方にに関する事項」においては、経年で比較したときにも昨年度より数値が大きく上回っている。6年生理科「エネルギー」を柱とする領域においては、課題がみられた。実験して終わりではなく、その内容を知識・技能と結び付けることを大切にしていく。
思考・判断・表現	経年で比較すると、どの教科も昨年度より平均正答率を上回っている学年が多い。知識・技能を身に付けるにとどまらず、子どもたち自身で課題を解決したり、思考を促す場面を設けたりすることで力が付いたと考えられる。ただ、6年生国語「話すこと・聞くこと」の領域においては、平均正答率に課題がみられた。話し手の立場だけでなく、聞き手としてどんな助言ができるかを国語の授業だけでなく普段の学校生活から考えられるよう指導をしていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	毎時間学びを振り返る時間を確保することで、次の学びの課題を設定する子どもの姿が見られた。振り返りを継続的にフィードバックできる手立てを検討していく。	変更なし
思考・判断・表現	A	どの教科でも協働的な学びを実施することを位置付け実施している。考えを共有したり、課題解決するために協働したりするためにクラウドを効果的に使う手立てを検討していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)